元島名旭遺跡 2

元島名旭遺跡 2

― 建売分譲住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査―

11017

高崎市教育委員会

2017 (平成29) 年

高崎市教育委員会 株式会社 歴史の杜 三共商事株式会社

元島名旭遺跡 2

- 建売分譲住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査-

2017 (平成 29) 年

高崎市教育委員会 株式会社 歴史の杜 三共商事株式会社



例 言

- 1. 本書は建売分譲住宅建設に伴う元島名旭遺跡第2次調査(高崎市遺跡番号690)の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
- 2. 本遺跡は群馬県高崎市元島名町字旭 281 番 1 、 -2 、 -3 、 -4 、 -5 に所在する。
- 3. 発掘調査は平成29年2月1日から平成29年2月20日まで実施した。
- 4. 発掘調査および整理調査・報告書作成は、高崎市教育委員会の管理の下、三共商事株式会社と委託契約を締結した株式会社歴史の杜が実施した。
- 5. 発掘調査の体制は下記の通りである。

高崎市教育委員会 矢島浩(監督員)

株式会社歴史の杜 小宮山達雄(調査員)

- 6. 本書の編集は小宮山が行なった。執筆は I を高崎市教育委員会文化財保護課が、Ⅲを村上章義(株式会社歴史の杜)が、他を小宮山が行なった。
- 7. 本遺跡に関わる図面・写真・遺物は、高崎市教育委員会で保管している。
- 8. 発掘調査における重機掘削および埋め戻しは有限会社渡重機工業、測量は株式会社測研に委託した。
- 9. 発掘調査および整理調査に携わった方々は以下の通りである(敬称略・五十音順)。

発掘調査 青柳哲夫・阿久澤侑椰・荒井克史・五十嵐正宏・石倉和彦・大澤百合子・川端勝・白砂福造・中村惠子・ 中村博樹・沼木忍

整理作業 新井遥・篠原信子・深井美紀

10. 発掘調査の実施および報告書の刊行に至る過程で、下記の諸氏、諸機関のご協力を賜った。

記して感謝申し上げます(敬称略・五十音順)。

株式会社大陸不動産、戸所工務所、水田稔、有限会社かねいち地所

凡例

- 1. 本書掲載の「第1図調査区位置図」は高崎市発行1/2,500『都市計画基本図』を、「第2図本遺跡の位置と周辺の遺跡」は国土地理院発行1/25,000地形図『前橋』・『高崎』をそれぞれ使用した。
- 2. 遺構挿図の座標については、世界測地系(測地成果 2011)を使用した。図中に示した方位は座標北である。
- 3. 挿図の縮尺は図中の以下の通りである。挿図中にはスケールを入れて表示している。 遺構 全体図 1/80、平面図 1/80、断面図 1/60、遺物出土状況図 1/10。

遺物 1/4~1/2で掲載し、遺物写真は遺物実測図と同様の縮尺である。

4. 挿図内のスクリーントーンが示す内容は、以下の通りである。

遺物 付着物 磨り面 磨り面 (光沢あり)

- 5. 土層および遺物の色調は、『新版標準土色帖』(農林水産省農林水産技術会議事務局監修, 2015) による。
- 6. 基本土層は、堆積層と人為的撹拌層に大文字のローマ数字を、層相が類似し、同じ層位と推定される層に算用数字を 付して枝番とした。遺構覆土層には基本土層に対応する層以外の層に上から算用数字を付した。
- 7. 基本土層および遺構覆土層の土層注記は、以下の書式で記載した。

土色・色相 明度/彩度・しまり・粘性・混入物

なお、しまり・粘性については強い→あり→ややあり→弱い→なし、混入物については多量→含む→少量→微量の順で度合いを示した。

- 8. 本書における火山噴出物(テフラ)の表記は略号を用いた。天明3 (1783) 年の浅間山噴火による降下テフラ= As-A、天仁元 (1108) 年の浅間山噴火による降下テフラ= As-B、6世紀中頃の榛名山噴火による降下テフラ= Hr-F P、6世紀初頭の榛名山噴火による降下テフラ= Hr-FA である。
- 9. 遺構標示の記号は、SD = 溝、SK = 土坑、<math>P = ピットとした。
- 10. 観察・一覧表の数値に付けられた() は遺存する現状値を、〈 〉は推定値をそれぞれ示し、単位は cm である。

目 次

V.検出された遺構と遺物・・・・・・7 1.溝跡・・・・・・8 2.土坑・ピット・・・・・・・・・・・・・・・・・10 3.遺構外出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・13 VI.まとめ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
図目次
第7図 溝断面図(2)・・・・・・10 第8図 土坑、ピット平・断面図・・・・・11 第9図 土坑出土遺物図・・・・・・12 第10図 遺構外出土遺物図・・・・・・13 第11図 古墳時代前期水路推定図・・・・・15
図版目次
写真図版 3 SD02全景

I.調査に至る経緯

平成28年8月、土地所有者である三共商事株式会社から、高崎市元島名町において計画している宅地造成工事に先立つ 埋蔵文化財の照会が市教育委員会文化財保護課(以下、市教委と略)にあった。当該地は周知の埋蔵文化財包蔵地である元島名旭遺跡内に所在するため、工事に際しては協議が必要である旨を回答した。同年9月5日には、市教委へ埋蔵文化財 試掘(確認)調査依頼書が提出され、同年9月28日に試掘(確認)調査を実施した。その結果、古墳時代後期と考えられる溝状遺構を確認した。この結果をもとに開発者と市教委で協議したが、現状保存は困難との結論に達し、発掘調査による記録保存の措置を講ずることで合意した。なお遺跡名については「元島名旭遺跡2」とした。

発掘調査は「群馬県内の記録保存を目的とする埋蔵文化財の発掘調査における民間調査組織導入事務取扱要項」に準じ、 平成29年1月6日に三共商事株式会社と民間調査機関株式会社歴史の杜との間で契約を締結、また同日に三共商事株式会 社・株式会社歴史の杜・市教委での三者協定も締結し、調査の実施にあたって市教委が指導・監督をすることとなった。

Ⅱ.調査の方法と経過

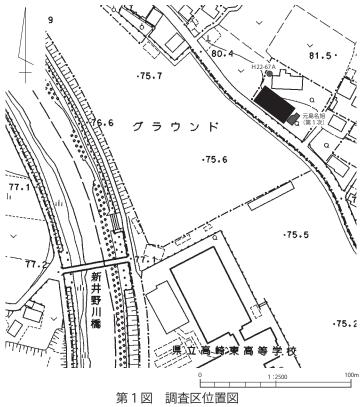
調査の方法 今回の調査対象は、開発面積 1589.34㎡に対し約 397㎡である。遺構確認面の検出は試掘調査の成果に基づき、重機によって地表面から IV 1 層上面まで掘り下げた。遺構確認作業はジョレンを用いて人力で行い、検出した遺構の形態や大きさを考慮して土層観察用のベルトを設定し、土の堆積状況や遺物の出土状況に留意しながら掘削を行なった。遺構の記録は、実測図の作成および写真撮影を行なった。遺構実測は光波測距儀を用いて全体図を 1/100、遺構平面図を 1/40、断面図を 1/20 の縮尺で作成した。写真記録は 35mm 一眼レフカメラを用いて、モノクロームネガ・カラーリバーサルフィルムの 2 種類を使用し、一眼レフデジタルカメラおよびコンパクトデジタルカメラも併用した。調査区全景写真は 高所作業車を用いて撮影した。

遺物の採り上げは、原位置ないしそれに準じる位置で出土していると判断したものについては平面図を作成し座標値と標高値を記録して、番号を付して採り上げた。それ以外の遺物は、出土状況の良いものは、座標値と標高値を記録し番号を付して採り上げ、出土状況の悪いものは遺構の覆土出土として一括して採り上げた。

調査の経過 発掘調査は平成29年2月1日から2月20日まで行なった。以下に調査経過の概略を記載する。

2月1日 調査開始。重機搬入。表土掘削開始。プレハブおよび仮設トイレ設置。作業員雇用開始。遺構確認作業開始。

- 2月2日 遺構確認作業。重機掘削終了。土山と 開発地東側に防塵ネットを設置し、周 辺住宅への塵土飛散対策を行なった。
- 2月3日 遺構確認作業。溝や土坑を検出。
- 2月6日 遺構確認作業。土坑・ピット・溝の調 香開始。
- 2月7日 土坑・ピット・溝調査。北東部ベルト 残し確認作業 (~14日)。
- 2月8日 土坑・溝調査。
- 2月15日 土坑・溝調査。北東部ベルト記録後 に除去(~16日)。
- 2月17日 高所作業車による撮影。器材の片付 け。高崎市教育委員会監督員による 完了確認。
- 2月20日 土山の防塵ネット撤去。重機による 調査区埋め戻し。重機搬出。開発地 東側の防塵ネット撤去。現場後片付 けおよび器材搬出。作業員の雇用を 終了。

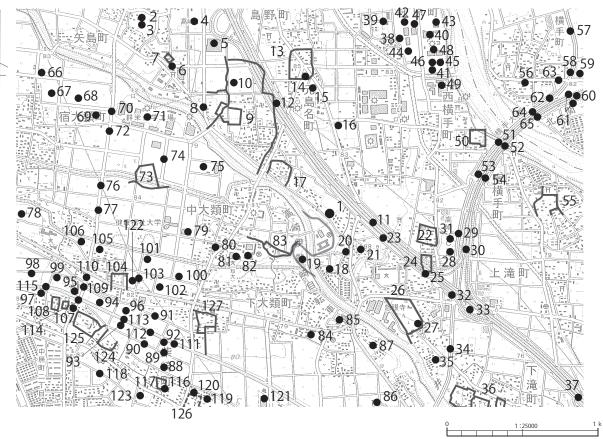


1

Ⅲ.遺跡の立地と周辺の遺跡

遺跡の位置と環境 本遺跡は高崎市の南東部の元島名町に所在し、高崎駅から東に直線距離で約4.9kmに位置する群馬県立高崎東高等学校の北側に隣接する。現在高崎東高の南を南東方向に流下している井野川は、戦後の米軍の空中写真や明治期に作成された迅速図によれば本来本遺跡と高崎東高との間を流れていたが、カスリン台風で被害を受けたため昭和26(1951)年から昭和36(1961)年までに現在の流路に整備改修されている。本遺跡が立地する井野川の左岸は前橋台地と呼ばれ、約2.1万年前の浅間山の噴火に伴って発生した前橋泥流を基盤として、その上にローム層が堆積している。『新編高崎市史 通史編1 原始古代』の「井野川低地帯の地下断面図」によれば、井野川の地下には旧利根川の河道が存在するとされ、前橋台地の西端は、旧利根川と井野川によって削られ、河岸段丘を形成している。

周辺の遺跡 本遺跡 (1) の周辺の遺跡の内容は第1表の通りである。本遺跡が立地する井野川と利根川の間の前橋台地では、弥生時代中期までの集落遺跡がほとんど認められず、矢島町薬師遺跡 (2) や鈴ノ宮遺跡 (6)、元島名遺跡 (8) で弥生時代後期に集落や墓域が形成されはじめ、古墳時代前期に入ると新たに、上滝遺跡 (23)、上滝榎町北遺跡 [北関東道] (30)、下滝天水遺跡 (34) でも集落が形成され、県内最古の古墳の一つである元島名将軍塚古墳 (21) が出現する。また周溝墓が鈴ノ宮、元島名遺跡、西横手遺跡群 (I) 西免地区 (49) で発見されている。本遺跡でも前期の溝が台地の縁辺に沿って南東方向に造られており、将軍塚古墳の北東側に隣接する溝を経て、上滝、上滝榎町北 [北関東道]、同 [長瀞線] (29) の前期水田へ水を供給していたと考えられる。なお、対岸の高崎情報団地 II 遺跡 (75) でも井野川に並行する前期の溝が発見されている。中期には元島名下河原遺跡 (18) を除き集落が断絶するが、後期に入ると再び前期の遺跡において集落が営まれ、下滝前山古墳 (27) や下滝御伊勢山古墳 (35) などの前方後円墳や円墳が造られている。また、6世紀初頭と中頃に降下した Hr-FAと Hr-FP のテフラ及びそれらに伴う洪水層下から小区画水田が、元島名諏訪北遺跡 (15) や上滝町の諸遺跡 (25・29~33)、萩原沖中遺跡 (38~44) などで発見されている。古代では、鈴ノ宮遺跡や元島名下河原遺跡、中大類輪具遺跡 (19) などで集落が調査され、元島名瓦井遺跡 (4) など井野川左岸の諸遺跡 (5・8・11・14~16・28~34・37)、萩原中沖遺跡など利根川右岸の諸遺跡 (38~44・46~49・51~54) で 1108 年に降下した As-B



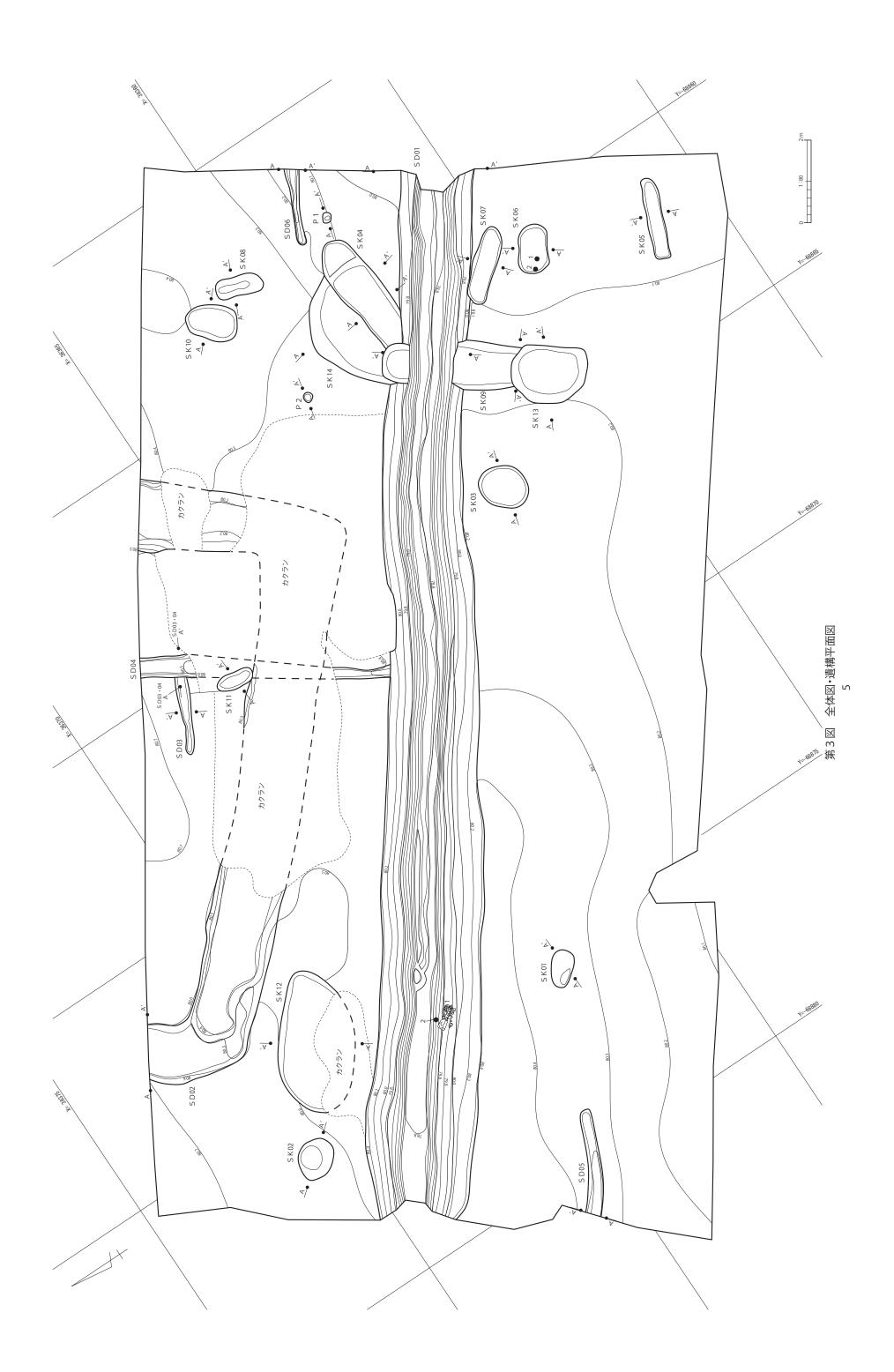
第2図 本遺跡の位置と周辺の遺跡

テフラで埋没した水田が調査されている。中世では、元島名城(9)や下滝館(36)などの城館址、元島名内出(17)などの一揆系の出城(屋敷)址、慈眼寺(26)などの武装化した寺社等、土塁や堀跡などの痕跡が数多く残存しており、一部では発掘調査も行われている。利根川右岸では西横手遺跡群[長瀞線](51)と宿横手三波川遺跡(53・54)で洪水層下の水田が調査されている。近世では上滝五反畑遺跡(33)で天明三年に降下した As-A テフラで埋没した水田が調査されている他、萩原沖中遺跡などで A テフラを処理するための土坑が調査され、西横手遺跡群[北関東道](52)などでは屋敷跡が発見されている。

第1表 周辺遺跡一覧表

2 3			
2 3	H22-67A. 元島名旭(試掘)	遺跡内容	文献
3		古墳:前期溝、近世:溝、土坑、不明:コの字状区画溝	本報告書
3		近世:As-A 混土の溝	滝沢匡・他, 2011『平成 22 年度市内遺跡発掘調査報告書』高崎市教委
3	元島名旭遺跡(第1次)	古墳:後期溝、近世:溝、土坑	滝沢匡・他, 2011『平成 22 年度市内遺跡発掘調査報告書』高崎市教委
	矢島町薬師遺跡	弥生:後期集落、古墳:後期集落、終末期円墳(薬師山古墳)周溝、平安〜中世:ピット群、不明:建物跡、 土坑、溝、ピット群	大越直樹·他, 1994『矢島町薬師遺跡』高崎市遺跡調査会
	薬師山古墳	古墳:終末期円墳。一部削平(宅地)。	尾崎喜左雄,1938『上毛古墳綜覧』群馬県
4	(総京ヶ島村第4号古墳)	1134 - 47/1/31 1340 HHILL (C-C/0	大越直樹·他, 1994『矢島町薬師遺跡』高崎市遺跡調査会
4			高崎市市史編さん委員会, 1999『新編高崎市史 資料編1 原始古代Ⅰ 付録地図帳』高崎市
	元島名瓦井遺跡	縄文:散布地(草創期尖頭器)、古墳:散布地、古代: B 下水田、近世:溝	志田登,1995『高崎市内遺跡緊急埋蔵文化財発掘調査報告9』高崎市教委
E .	元島名中子遺跡	古代:B下水田	長井正欣,1995『元島名瓦井遺跡』高崎市遺跡調査会 神戸肇,1999『高崎市内遺跡埋蔵文化財緊急発掘報告書13』高崎市教委
	鈴ノ宮遺跡	弥生:集落、方形周溝墓、甕棺墓、古墳:前期集落、方形周溝墓、後期集落、古墳、古代:集落	飯塚恵子,1978『鈴ノ宮遺跡』高崎市教委
	鈴ノ宮屋敷	中世:屋敷堀(単郭)。消滅。	飯塚恵子, 1978『鈴ノ宮遺跡』高崎市教委
			高崎市市史編さん委員会, 1996『新編高崎市史 資料編3 中世Ⅰ』高崎市
	元島名遺跡	縄文:後期土坑、弥生:集落、方形周溝墓、古墳:前期集落、円形周溝墓、後期集落、古代:水田(B下水田か)	五十嵐至,1979『元島名遺跡』高崎市教委
9	元島名城	中世:複郭(囲郭)城館跡。消滅。	五十嵐至,1979『元島名遺跡』高崎市教委 高崎市市史編さん委員会,1996『新編高崎市史 資料編3 中世Ⅰ』高崎市
10	桜屋敷	中世:館跡(桜屋敷か)。元島名城総構え外。消滅。	五十嵐至,1979『元島名遺跡』高崎市教委
			高崎市市史編さん委員会, 1996『新編高崎市史 資料編3 中世Ⅰ』高崎市
	元島名A遺跡	古代:B下水田か	佐藤明人・他, 1981『八幡原A・B 上滝 元島名A』(財) 群馬県埋蔵文化財調査事業団
	元島名B遺跡	縄文:散布地、弥生:溝、古墳:散布地、古代:散布地、中世:古墓、溝、城郭(元島名城二の丸北東隅)	
13	島野環濠遺構群	中世:環濠遺構(阿久沢屋敷か)。堀残存。	山崎一, 1979『群馬県古城塁址の研究 補遺篇 上巻』群馬県文化事業振興会 高崎市市史編さん委員会, 1996『新編高崎市史 資料編3 中世 I 』高崎市
14	H19-32. 元島名(町新堀)	古代: B下水田	神戸肇・他、2008『平成 19 年度市内遺跡発掘調査報告書』高崎市教委
	元島名諏訪北遺跡	古墳:散布地、FA下水田か、古代:B下水田	高崎市教委,1992『高崎市内遺跡埋蔵文化財緊急発掘調査報告書』
	島野中町遺跡	古墳:FA下水田か、古代:B下水田	高崎市教委,1992『高崎市内遺跡埋蔵文化財緊急発掘調査報告書』
17	元島名内出	中世:複郭屋敷跡(阿久沢氏屋敷か)。堀、土居一部残存。	山崎一,1971『群馬県古城塁址の研究 上巻』群馬県文化事業振興会
			高崎市市史編さん委員会,1996『新編高崎市史 資料編3 中世Ⅰ』高崎市
	元島名下河原遺跡 中大類輪具遺跡	縄文:包含層、弥生:散布地、古墳:前期包含層、中~後期集落、古代:集落 古墳:終末期集落、古代:集落	金子正人,1994『元島名下河原遺跡』高崎市遺跡調査会 横倉興一,1989『高崎市内遺跡緊急埋蔵文化財発掘調査報告書』高崎市教委
		超文:散布地、古墳:後期古墳周溝	機局乗子。1969 尚崎印内退跡緊忌埋敝又に附光伽崎直報行音。 尚崎印教安 角田真也・他,2010『平成 21 年度 市内遺跡発掘調査報告書。高崎市教委
	元島名将軍塚古墳	古墳:前期前方後方墳 (3世紀末から4世紀前半)、溝、土坑、住居址状遺構、古代:溝、中世:井戸。現	
		存。県内最古級の古墳の一つ。	群馬県史編纂委員会,1981『群馬県史 資料編3 原始古代3 古墳』群馬県
	No. of the last of	Little Maria (maria) and Maria (maria) and Maria (maria) (maria)	高崎市市史編さん委員会, 1999『新編高崎市史 資料編1 原始古代Ⅰ』高崎市
22	江原屋敷	中世:複郭(囲郭)屋敷跡。堀、土居、郭残存。	山崎一, 1979『群馬県古城塁址の研究 補遺篇 上巻』群馬県文化事業振興会 高崎市市史編さん委員会, 1996『新編高崎市史 資料編3 中世 I 』高崎市
23	上滝遺跡	縄文:散布地、古墳:前期集落、溝、後期集落、溝、古代:集落、中世:館跡	佐藤明人・他, 1981『八幡原A・B 上滝 元島名A』(財) 群馬県埋蔵文化財調査事業団
	上滝中屋敷	中世:環濠屋敷(複郭)跡。消滅。	佐藤明人・他, 1981『八幡原A・B 上滝 元島名A』(財) 群馬県埋蔵文化財調査事業団
			高崎市市史編さん委員会, 1996『新編高崎市史 資料編3 中世Ⅰ』高崎市
	上滝Ⅱ遺跡	古墳:FA 下水田、FP 下水田、古代:溝、畦、中・近世:竪穴、井戸、溝、柵列	谷藤保彦, 2002『上滝榎町北遺跡・上滝Ⅱ遺跡』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
-	慈眼寺	中世:複郭(並郭)寺社。堀残存。寺院現存。	高崎市市史編さん委員会、1996『新編高崎市史 資料編3 中世Ⅰ』高崎市
	下滝前山古墳 (綜滝川村第2号古墳)	古墳:後期前方後円墳(6世紀後半から6世紀末葉ないし7世紀初頭)	尾崎喜左雄, 1938『上毛古墳綜覧』群馬県 群馬県史編纂委員会, 1981『群馬県史 資料編 3 原始古代 3 古墳』群馬県
	OWNED LITTED TO STORY		高崎市市史編さん委員会、1999『新編高崎市史 資料編 1 原始古代 1』高崎市
28	H19-31. 上滝	古墳:FA 下水田、古代:微高地(集落範囲内か)、B 下水田	神戸肇・他,2008『平成 19 年度市内遺跡発掘調査報告書』高崎市教委
29	上滝榎町北遺跡	古墳:前期建物跡、C混土層下水田(擬似水田)、農耕祭祀跡、C混土層上水田、FA下水田、FP下水田、	谷藤保彦,2002『上滝榎町北遺跡・上滝Ⅱ遺跡』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
20	[長瀞線]	古代:集落、B下水田、B下畠、中世:館跡、近世:A下水田	文建学标
30	上滝榎町北遺跡 [北関東道]	縄文:散布地、古墳:C混土層下水田(擬似水田)、C混土層上水田、FA下水田、古代:B下水田、中~近世:屋敷跡、建物跡、近世:A下水田	斎藤英敏·他, 2002『上滝榎町北遺跡』(財)群馬県埋蔵文化財調查事業団
31	上滝榎町北Ⅱ遺跡	古墳:FA 下水田、FP 洪水層下水田、古代:B 下耕作痕、溝、中世:建物跡、溝	金子正人,1997『上滝榎町北Ⅱ遺跡』高崎市遺跡調査会
32	上滝榎町北Ⅲ遺跡	古墳:FA下水田、古代:B下水田、中世:溝、近世:溝	大江正行・他,2004『下滝天水遺跡』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
	上滝五反畑遺跡	古墳:FA 泥流下水田、古代:B下水田、近世:A下水田	金井武, 1999『上滝五反畑遺跡』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
34	下滝天水遺跡	縄文:散布地、弥生:散布地、古墳:前期集落、方形区画 (居館か)、後期集落、FA下水田、FA以降耕	大江正行・他,2004『下滝天水遺跡』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
35	下滝御伊勢山古墳	作痕(畠か)、古代:集落、B下水田、中世:下滝館外郭堀、近世:A 復旧痕 古墳:円墳	尾崎喜左雄,1938『上毛古墳綜覧』群馬県
	(線滝川村第1号古墳)	1134 - 1334	高崎市市史編さん委員会, 1999『新編高崎市史 資料編1 原始古代Ⅰ』高崎市
36	下滝館	中世:複郭・館跡の集合体(足利成氏の館か)。堀、土塁、郭残存。	高崎市市史編さん委員会, 1996『新編高崎市史 資料編3 中世Ⅰ』高崎市
	Warra o whints	And a Made the delite to the 1th	大江正行・他, 2004『下滝天水遺跡』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
	滝川 C 遺跡 萩原沖中遺跡	縄文:散布地、古墳:前期土坑、溝、後期土坑、溝、古代:(B下水田か) 古墳:FA 洪水層下水田、FP 洪水層下水田、古代:B下水田、中・近世:溝、ピット、A 軽石処理坑、	中隆之, 1987『下斉田・滝川A遺跡 滝川B・C遺跡』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 吉田昌利, 2005『萩原沖中遺跡』高崎市教委
55	ENDON'T' L'ASSET	日頃・FA 64小僧 F小田、FF 64小僧 F小田、白(・B F小田、中・近世・海、ヒッド、A 軽白処理別、 現代:不発弾	LINETTY DOOD "PARKET PROPERTY IN THE PARKET
	萩原沖中Ⅱ遺跡	古墳:FA 洪水層下水田、FP 洪水層下水田、古代:B 下水田、近世:溝	折原覚・他, 2007『萩原沖中Ⅱ遺跡』高崎市教委
	萩原沖中遺跡 第3次	古墳:前期土坑、ピット、溝、FA 洪水層下水田、FP 洪水層下水田、古代:B 下水田	萩野博巳・他、2009『萩原沖中遺跡第3次調査』高崎市教委
	萩原沖中遺跡 5	古墳:FA 洪水層下水田、FP 洪水層下水田、古代:B 下水田	金子正人・他, 2009『萩原沖中遺跡 5』高崎市教委
	萩原・沖中遺跡 6	古墳:FA 洪水層下水田、FP 洪水層下水田、古代:B 下水田	佐野良平・他,2009『萩原・沖中遺跡6』高崎市教委 前田和昭・他,2013『萩原・沖中遺跡7 西横手・西免遺跡4 西横手西免遺跡5』技研測量設計(株)
	萩原・沖中遺跡 7 萩原・沖中遺跡 8	古墳以前:溝、古墳:溝、FA 洪水層下水田、FP 洪水層下水田、古代:B 下水田、中近世:土坑 古墳:前期周溝状遺構、F A 洪水層下水田、古代:B 下水田、中・近世:溝、土坑	前田和昭・他, 2013 『秋原・冲中遺跡 7 四横手・四兄遺跡 4 四横手四兄遺跡 5 』 技術測量設計 (株) 山田誠司, 2015 『萩原・沖中遺跡 8 』 高崎市教委
	西横手・西免遺跡 4	古墳:FA 洪水層下水田、近世:堀	前田和昭·他, 2013 『萩原·沖中遺跡 7 西横手·西免遺跡 4 西横手西免遺跡 5』技研測量設計(株)
	西横手西免遺跡 5	古墳:FP 洪水層下水田、古代:B 下水田、中近世:土坑	前田和昭·他, 2013『萩原·沖中遺跡7 西横手·西免遺跡4 西横手西免遺跡5』技研測量設計(株)
	西横手遺跡群(Ⅱ)	古墳:水路、FA 下水田、古代: B 下水田	桜井衛,1990『西横手遺跡群(Ⅱ)』高崎市教委
		古墳:前期周溝墓、FA下水田、古代:B下水田	桜井衛・他 1989『西横手遺跡群(I)』高崎市教委
48		古代:B下水田、中世:畝状遺構、近世:備前場	桜井衛・他 1989 『西横手遺跡群 (I)』高崎市教委
48 i	新居屋敷 西横手遺跡群	中世:複郭屋敷跡。消滅。戦国武士の新居(新井)喜左衛門の屋敷跡と推定される。 古墳: C混土水田、FA 下水田、FP 泥流下水田、古代: B 下水田、中世: 利根川洪水層下水田 (B 混土水田)、	高崎市市史編さん委員会,1996『新編高崎市史 資料編3 中世 I 』高崎市 多森利昭・他 2003『完婦壬三法川遺跡 西藤毛遺跡群』(財)群馬県畑蔵立化財御秀東業団
48 i 49 i 50	四项丁退即併	古項、C花工水田、FA F水田、FP 泥流 F水田、古代・B F水田、中世・利憶川浜水層 F水田(B 花工水田)、 近世:屋敷跡	月原作 中: E, 2003
48 i 49 i 50 i 51 i	[長瀞線]	古墳以前:溝、杭列、古墳:FA 下水田、FP 下水田、古代:集落、B 下水田、中世:井戸、墓、溝、	岩崎琢郎・他, 2001 『西横手遺跡群』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
48 i 49 i 50 i 51 i	[長瀞線] 西横手遺跡群	近世:屋敷跡、墓壙群、溝	
48 i 49 i 50 i 51 i	西横手遺跡群 [北関東道]		
48 ii 49 ii 50 ii 51 ii 52 ii	西横手遺跡群 [北関東道] 宿横手三波川遺跡	古墳: C 混土水田、FA 下水田、FP 泥流下水田、古代: B 下水田、中世: 利根川洪水層下水田 (B 混土水田)、	斉藤利昭・他,2003『宿横手三波川遺跡 西横手遺跡群』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
48 i 49 i 50 i 51 i 52 i 53 i 6	西横手遺跡群 [北関東道] 宿横手三波川遺跡 [長瀞線]	古墳: C混土水田、FA 下水田、FP 泥流下水田、古代: B 下水田、中世: 利根川洪水層下水田(B 混土水田)、近世:屋敷跡、耕作痕	
48 i 49 i 50 51 i 52 i 53 6 54 6	西横手遺跡群 [北関東道] 宿横手三波川遺跡	古墳:C 混土水田、FA 下水田、FP 泥流下水田、古代:B 下水田、中世:利根川洪水層下水田(B 混土水田)、近世:屋敷跡、耕作痕	
48 49 50 51 52 53 54 6	西横手遺跡群 [北関東道] 宿横手三波川遺跡 [長瀞線] 宿横手三波川遺跡 [北関東道]	古墳:C混土水田、FA 下水田、FP 泥流下水田、古代:B 下水田、中世:利根川洪水層下水田(B 混土水田)、 定世: 屋敷砂。 耕作館 古墳以前:溝。古墳:C 混土層中水田、C 混土層上水田、FA 下水田、FP 下水田、古代:溝、水田、B 下水田、 中世:B 混土層上水田、建物跡、 淡水層下水田、サク状造樽、 近世:淡水層下水田、A 復旧遺樽、屋敷闽藻、 A 混土層下水田 (優成水田)	岩崎琢鄉·他, 2001 「宿横手三波川遺跡」(財) 群馬県埋蔵文化財調査事業団
48 49 50 51 52 53 54 55 65 65 65 65 65 65	西横手遺跡群 住民東道自 宿横手三波川遺跡 長鄰線 宿横手三波川遺跡 (北関東道) 中島内出(田口屋敷)	占墳:C記士水田、FA 下水田、FP 泥流下水田、古代:B 下水田、中世:利根川洪水層下水田(B 混土水田)、近世:屋敷跡、耕作版 近世:屋敷跡、耕作版 古墳以前浦、古墳:C混土層中水田、C混土層土水田、FA 下水田、FP 下水田、古代:溝、水田、B 下水田、中世・B湿土層上水田、建物跡、洪水層下水田、サク状遺構、近世:洪水層下水田、A 復旧遺構、屋敷関藻、 A混土層下水田(擬似水田) 甲世:屋敷跡、土塁一部及称。戦国大名長野業数の家臣の田口業祐の屋敷跡と推定される。	芒崎琢郷・他,2001『裕横手三波川遺跡』(財) 群馬県埋蔵文化財調査事業団 高崎市市史編さん委員会、1996『新編高崎市史 資料編3 中世1』高崎市
48 i 49 i 50 i 51 i 52 i 53 i 54 i 55 i 56 i	西横手遺跡群 [北関東道] 宿横手三波川遺跡 [長瀞線] 宿横手三波川遺跡 [北関東道]	古墳:C混土水田、FA 下水田、FP 泥流下水田、古代:B 下水田、中世:利根川洪水層下水田(B 混土水田)、 定世: 屋敷砂。 耕作館 古墳以前:溝。古墳:C 混土層中水田、C 混土層上水田、FA 下水田、FP 下水田、古代:溝、水田、B 下水田、 中世:B 混土層上水田、建物跡、 淡水層下水田、サク状造樽、 近世:淡水層下水田、A 復旧遺樽、屋敷闽藻、 A 混土層下水田 (優成水田)	岩崎琢邸·他, 2001「宿横手三波川遭跡」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団

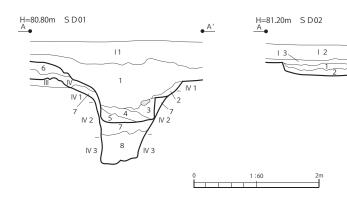
57	亀里平塚遺跡	古墳: C 混土層上水田(FA 下水田の擬似水田)、古代: B 下水田、近世: 利根川洪水層下水田、墓坑	斉藤利昭・他, 2001 『亀里平塚遺跡・横手宮田遺跡・横手早稲田遺跡・横手南川端遺跡』(財) 群馬
58	横手宮田遺跡	古墳:C混土層上水田、FP 洪水下水田、古代:B下水田、中世:B混土層上水田、近世:A泥流復旧遺構	
50	ART Stem or Mark	+/6 D.T.dem chill D.21 D.71 dem	県埋蔵文化財調査事業団
	横手宮田Ⅱ遺跡 横手湯田遺跡		小峰篤・他, 2004『横手宮田Ⅱ遺跡』前橋市埋蔵文化財発掘調査団 春山秀幸, 2002『横手南川端遺跡・横手潟田遺跡』(財) 群馬県埋蔵文化財調査事業団
	[北関東道]	川洪水層下小区両水田、条理地割、B下水田、建物跡、屋敷跡、中世:利根川洪水層下水田 (B混土水田)、近世:利根川洪水 (寛保二年か) 層下水田、利根川洪水層復旧遺構 (A泥流復旧遺構	
	横手湯田 V 遺跡	縄文:散布地、弥生:散布地、古墳:前期溝、土坑、FA 下水田、FP 下遺構確認而(水田か)、古代:B 下水田、中世:B 混土層上水田	
	横手早稲田遺跡 横手井戸南遺跡	占墳: FP 挑水下水田、古代: 洪水曆下溝、土坑、B 下水田、中世: 洪水下水田、中近世: 洪水曆中水田遺 構、近世: A 下步少状遊構、A 泥流復旧遊構 古代: B 下水田	/青藤柯昭·他, 2001『植里平塚超跡・横手呂田超跡・横手早稲田超跡・横手南川端超跡』(財)群馬 県理蔵文化財調查事業団 前橋市教育委員会文化財保護課, 1996『平成7年度文化財調查報告書第26集』
64	横手南川端遺跡	古墳:FA 下水田、FP 泥流下水田、古代:竪穴状遺構、B 下水田、中世:洪水下水田、建物跡、	斉藤利昭・他,2001『亀里平塚遺跡・横手宮田遺跡・横手早稲田遺跡・横手南川端遺跡』(財)群馬
65	[長瀞線] 横手南川端遺跡 [北関東道]	中近世: 洪水曆中水田畫轉, 近世: 名泥流復旧遺轉 古墳: 溝, FA 下水田、FP 下水田、古代: 条理地割、建物跡、B 下水田、中世: 利根川洪水層下水田(B 建上水田)、屋敷区画溝、近世: 利根川洪水(寛保二年か)層下水田、利根川洪水層復旧遺構、天明泥流復	県理蔵文化財調查事業団 春山秀幸, 2002『横手南川端遺跡・横手潟田遺跡』(財)群馬県埋蔵文化財調查事業団
00		旧遊構	
	矢島前遺跡 村東遺跡	古代:B下水田 古代:建物跡、B下水田	中村茂・他, 1985『村北・矢島前・村東遺跡』高崎市教委 中村茂・他, 1985『村北・矢島前・村東遺跡』高崎市教委
	山鳥遺跡	古代:建物群、土坑墓、井戸、B下水田	神戸聖語, 1984『山鳥・天神遺跡』高崎市教委
-	天神遺跡	縄文:前期集落、土坑、古代:建物、土坑墓、円形遺構	神戸聖語、1984『山鳥・大神遺跡』高崎市教委
70	天神久保遺跡	縄文:散布地、古代:建物、B下水田	結城千尋,1985『天神久保遺跡』高崎市
		縄文:中期~後期集落、弥生:後期集落、古墳:前期建物、古代:集落、B下水田、中世:建物、井戸	神戸聖語・他, 1985『万相寺遺跡』高崎市教委
	宿大類塚ノ越遺跡	古代: 8下水田	高崎市教委,1993『高崎市内遺跡埋蔵文化財緊急発掘報告書』
	塚ノ越屋敷	中世:単郭屋敷(方形館か)跡(大類氏の関連か)。消滅。	長井正欣・他, 1997『高崎情報団地遺跡』高崎市遺跡調査会 高崎市市史編さん委員会, 1996『新編高崎市史 資料編3 中世 I 』高崎市
74	高崎情報団地遺跡	縄文:散布地、弥生:後期集落、方形周溝墓、古墳:前期集落、大溝、中期集落、古墳、土坑墓、溝、古代:集落、東山道駅路跡、配石墓、B下水田、中・近世:館跡、井戸、畝状遺構	長井正欣・他, 1997『高崎情報団地遺跡』高崎市遺跡調査会 高崎市市史編さん委員会, 1999『新編高崎市史 資料編Ⅰ 原始古代Ⅰ』高崎市
75	高崎情報団地Ⅱ遺跡	種之:中期集落、遺構外遺物(草原即拜舌尖頭器、前期結應b式土器片)、弥生:中期後半~後期集落 古墳:前期~後別程家、中期~後別古墳、前期大浦、後別石製模造品工房跡、古代:集落、東山道駅路跡。 B 下水田、中世: 龍路、利根川港水層下水田 (B 混土水田)	角田真也・他, 2002『高崎情報団地Ⅱ遺跡』高崎市教委
76	南大類東沖遺跡		関口修・他、1997『南大類東沖・稲荷遺跡』高崎市教委
	南大類稲荷遺跡	古墳:前期集落、古代:集落、洪水層下水田、B下水田、F中。上坑、近境代、水稻 古墳:前期集落、古代:集落、洪水層下水田、B下水田	関口修・他, 1997『南大類東沖・稲荷遺跡』高崎市教委
	南大類村南遺跡	古代:建物、中世:井戸、土坑墓、堀、近世:A 処理溝	神戸聖語·他, 1994『高崎市内遺跡埋蔵文化財緊急発掘調査報告書』高崎市教委
	中大類沖田遺跡	古代:B下水田、中世:土坑、溝、近世:A 軽石処理坑	中产量語・地, 1994 尚崎中/内遺跡生版文1. 的条志光鑑調直報音音』尚崎中教委 長谷川一郎, 2000 『中大類沖田遺跡』高崎市遺跡調査会
	中大類金井遺跡	超文:散布地、古墳:後期集落、古代:集落、井戸	星野守弘,1989『中大類金井遺跡』高崎市遺跡調査会
-	中大類金井分遺跡	神文・取中地、台項・按別来洛、台八・米洛、井戸 古墳:集落、古代:集落、中世:土坑	生野で名。1909 『中人叔本井恵跡』 同崎中恵跡調正云 宮寺久・他、1992 『中大類金井分遺跡』 高崎市遺跡調査会
	中大類・天田遺跡	古墳:散布地、古代:集落、中世:星敷跡、区画溝	高林真人·他,1992『中人類並升万週跡』高崎中週跡調査会 高林真人·他,2011『中大類・天田遺跡』高崎市遺跡調査会
	中八知・大田週砂 降照(ぶってん)屋敷	古頃・取中地、古代・東洛、中世・産敷跡、区画海 中世:複郭屋敷跡(高井氏の屋敷か)。堀、土塁残存。	山崎一, 1971 『群馬県古城塁址の研究 上巻』群馬県文化事業振興会
			高崎市市史編さん委員会, 1996『新編高崎市史 資料編3 中世Ⅰ』高崎市
	下大類・中道下遺跡	古墳:溝、井戸、土坑、古代:溝、土坑	福嶋正史, 2010『下大類・中道下遺跡』高崎市教委
85	下大類蟹沢遺跡	縄文:石器、古墳:集落、溝状遺構、柵列状遺構、古墳、古代:集落、溝状遺構	伊藤廉倫, 1993『下大類蟹沢遺跡』高崎市遺跡調査会
86	綿貫稲荷山古墳 (綜岩鼻村第 23 号古墳)	古墳:円墳(横穴式石室)。現存。	尾崎喜左雄,1938『上毛古墳綜覧』群馬県
87	H21-62. 綿貫町字常慶	古墳:古墳周溝、溝 古代:溝	
88	柴崎遺跡群 (I) 村間遺跡	古代:B下水田	星野太・他,1984『柴崎遺跡群(I) 村間・富士塚前 A遺跡』高崎市教委
89	柴崎遺跡群 (I)	古代: 8下水田	屋野太・他, 1984『柴崎遺跡群(I) 村間・富士塚前 A 遺跡』高崎市教委
	富士塚前 A 遺跡		
90	柴崎遺跡群(Ⅱ) 東原遺跡	古代: B下水田	桜井衛・他, 1985『柴崎遺跡群(Ⅱ) 東原・富士塚・富士塚前 B 遺跡』高崎市教委
91	柴崎遺跡群(Ⅱ) 富士塚遺跡		桜井衛・他,1985『柴崎遺跡群(Ⅱ) 東原・富士塚・富士塚前 B 遺跡』高崎市教委
92	柴崎遺跡群(Ⅱ)	古代: B下水田	桜井衛・他, 1985『柴崎遺跡群(Ⅱ) 東原・富士塚・富士塚前 B 遺跡』高崎市教委
	富士塚前B遺跡	+/2 - p = 1 m + H - 1 h - 1 h	har light and a Palacke valuation of company of the second of the company of the
	柴崎遺跡群(Ⅲ) 新堀遺跡	古代: B下水田、中世: 土坑、ピット	桜井衛、1986『柴崎遺跡群(Ⅲ) 新堀・根際・吹手西A・富士塚B遺跡』高崎市教委
95	柴崎遺跡群(Ⅲ) 根際遺跡 柴崎遺跡群(Ⅲ)	古代:B下水田、中世:土坑、ピット 古代:B下水田、中世:土坑、ピット	桜井衛, 1986『柴崎遺跡群 (Ⅲ) 新堀・根際・吹手西 A・富士塚 B 遺跡』高崎市教委 桜井衛, 1986『柴崎遺跡群 (Ⅲ) 新堀・根際・吹手西 A・富士塚 B 遺跡』高崎市教委
95	吹手西 A 遺跡	白八・B下水田、中世・土別、このト	
96	柴崎遺跡群(Ⅲ)	古代:B下水田、中世:土坑、ピット	桜井衛, 1986『柴崎遺跡群(Ⅲ) 新堀・根際・吹手西 A・富士塚 B 遺跡』高崎市教委
97	富士塚 B 遺跡 柴崎遺跡群(IV) 西沖遺跡	古代:B下水田、水路	久保泰博, 1987『柴崎遺跡群(IV) 西沖、柳原、吹手西B遺跡』高崎市教委
	柴崎遺跡群(IV) 柳原遺跡	古代: B下水田、水路	久保泰博, 1987『柴崎遺跡群(IV) 西沖、柳原、吹手西 B 遺跡』高崎市教委
99	柴崎遺跡群(IV)	古代: B下水田、水路	久保泰博,1987『柴崎遺跡群(IV) 西沖、柳原、吹手西 B 遺跡』高崎市教委
	吹手西B遺跡		
	柴崎遺跡群(V) 殿谷戸遺跡		久保泰博, 1989『柴崎遺跡群(V) 殿谷戸、旭、富士塚、隼人、吹手、峰岸遺跡』高崎市教委
	柴崎遺跡群 (V) 旭遺跡	古墳:集落、古代:集落、中世:区画堀	久保泰博, 1989『柴崎遺跡群 (V) 殿谷戸、旭、富士塚、隼人、吹手、峰岸遺跡』高崎市教委
102	柴崎遺跡群(V) 富士塚遺跡	遺跡内容不明	久保泰博, 1989『柴崎遺跡群(V) 殿谷戸、旭、富士塚、隼人、吹手、峰岸遺跡』高崎市教委
103	柴崎遺跡群(V) 隼人遺跡	中世:館堀(隼人屋敷か)	久保泰博,1989『柴崎遺跡群(V) 殿谷戸、旭、富士塚、隼人、吹手、峰岸遺跡』高崎市教委
	华人屋敷	中世:回字型複郭(囲郭)屋敷(原隼人の屋敷か)。消滅。	山崎一, 1979『群馬県古城塁址の研究 補遺篇 上巻』群馬県文化事業振興会
			久保泰博, 1989『新編高崎市史 資料編3 中世I』高崎市
		遺跡内容不明	久保泰博, 1989『柴崎遺跡群(V) 殿谷戸、旭、富士塚、隼人、吹手、峰岸遺跡』高崎市教委
	柴崎遺跡群(V) 峰岸遺跡	古墳:集落、古代:集落	久保泰博, 1989『柴崎遺跡群 (V) 殿谷戸、旭、富士塚、隼人、吹手、峰岸遺跡』高崎市教委
107	柴崎遺跡群 西浦遺跡	古墳:前期溝(方形周溝墓か)、古代:集落、溝、中世:堀、近世:建物跡、溝、現代:溝	久保泰博, 1991『柴崎遺跡群 西浦、吹手西遺跡』高崎市教委
108	柴崎西浦屋敷	中世:方形館(複郭か)跡(高井氏の新宅か)	久保泰博, 1992 『柴崎遺跡群 西浦、隼人、吹手西遺跡』高崎市教委 久保泰博, 1991 『新編高崎市史 資料編3 中世1』高崎市
	朱崎遺跡群 吹手西遺跡	古代:B下溝	久保泰博,1991『柴崎遺跡群 西浦、吹手西遺跡』高崎市教委
	朱崎遺跡群	中近世:建物跡、溝、土坑	久保泰博,1992『柴崎遺跡群 西浦、华人、吹手西遺跡』高崎市教委
	华人、吹手西遺跡		
	柴崎遺跡群 富士塚前遺跡	古代:集落、B下水田	久保泰博,1993『柴崎遺跡群、南大類遺跡群』高崎市教委
	柴崎遺跡群 東原遺跡	古代:B下水田、近世:溝、近現代:溝	久保泰博,1993『柴崎遺跡群、南大類遺跡群』高崎市教委
	柴崎遺跡群 新堀遺跡	古代:集落、B下水田、近世:溝、近現代:溝	久保泰博, 1993 『柴崎遺跡群』南大類遺跡群』高崎市教委
	柴崎遺跡群 西浦遺跡	古墳: 方形周溝墓、古代: B下水田、中世以降: 溝	久保泰博, 1993『柴崎遺跡群、南大類遺跡群』高崎市教委
-	柴崎遺跡群 西沖遺跡	古代:B下水田	久保泰博, 1993 『柴崎遺跡群、南大類遺跡群』高崎市教委
	柴崎村間遺跡 村間屋敷	縄文:前期土坑、古墳:前期~中期土坑、中世:屋敷堀、井戸、近世:溝 中世:複郭屋敷跡。消滅。	星野守弘・他, 1990『柴崎村間遺跡』高崎市遺跡調査会 星野守弘・他, 1990『柴崎村間遺跡』高崎市遺跡調査会
11/	13 四厘形	TENTE TENTE TENTE (FIRM)	星野守弘・他, 1990 『栄呵忖問週跡』 高呵中週跡調査会 高崎市市史編さん委員会, 1996 『新編高崎市史 資料編3 中世 I 』高崎市
118	天王前遺跡	縄文:散布地、古墳:土坑、ピット、古代:B下水田、池状遺構	白石修・他, 1982『天王前遺跡』高崎市教委
	柴崎浅間山古墳	古墳:円墳(方墳の可能性あり)。現存。	尾崎喜左雄,1938『上毛古墳綜覧』群馬県
	(綜大類村第 17 号古墳) 柴崎蟹沢古墳	古墳: 4世紀代の円墳。削平。三角縁四神四獣鏡 2 面 (うち 1 面は 「□始元年」(同范鏡から 「正始元年 (240	高崎市市史編さん委員会, 1999『新編高崎市史 資料編1 原始古代Ⅰ 付録地図帳』高崎市
120	宋阿茲(八百項 (綜大類村第 18 号古墳)	年)」と判明)銘を有する)、内行花紋鏡 2 面、短冊形鉄斧 2 個、鉄鑿 1 本、鉄製刀剣片一括、鍵器(鉄釶) 1 本、土師器片 9 個出土。平成元(1989)年 1 月に「群馬県蟹沢古墳出土品」と国重要文化財に一括指定	群馬県史編纂委員会,1981『群馬県史 資料編3 原始古代3 古墳』
101	T-Lasten (T-Lasters	(指定番号 446)。	
121	下大類遺跡(下大類流通セン ター予定地内遺跡)	古墳:前期集落、中期~後期散布地	大類村史編纂委員会,1979『大類村史』
122	柴崎・隼人遺跡3	古代:集落、中世:水田	石丸敦史・他,2012『柴崎・隼人遺跡 3』(有)毛野考古学研究所
	柴崎前遺跡	古代:集落、井戸、集石遺構、B下水田	星野太・他, 1984『柴崎前・村北B遺跡』高崎市教委
	柴崎桜井屋敷	中世:複郭屋敷跡(桜井氏の屋敷か)。本郭の堀、土塁残存。	高崎市市史編さん委員会、1996『新編高崎市史 資料編3 中世Ⅰ』高崎市
125	高井屋敷	中世:複郭屋敷跡(高井氏の屋敷か)。堀、土居残存。外郭内に進雄神社が存在。	山崎一, 1971『群馬県古城塁址の研究 上巻』群馬県文化事業振興会
	Anthropological	de III. a PERSONA (APSAREL) DEL CA ARTERIA	高崎市市史編さん委員会、1996『新編高崎市史 資料編3 中世 I 』高崎市
	蟹沢屋敷	中世:屋敷跡(複郭か)。堀の一部残存。	高崎市市史編さん委員会、1996『新編高崎市史 資料編3 中世 I 』高崎市
127	大類寄居	中世:複郭(囲郭)砦跡。消滅。上杉氏の代表被官の支城か。	山崎一,1971『群馬県古城塁址の研究 上巻』群馬県文化事業振興会 宣統市市中紀文4 承島会 1006『新紀宣統市中 流料紀2』中世上「宣統市
ш		1	高崎市市史編さん委員会, 1996『新編高崎市史 資料編3 中世Ⅰ』高崎市



IV. 基本層序

調査区壁面は東壁を除き攪乱などにより基本層序の記録に適さなかったため、東壁の SD01 断面を基本層序と兼ねて観察 を行なった。なおIV1~IV3層については、溝断面ではなく、溝壁面での観察である。

- I層 表土層。色調が異なり砕石などを多く含む部分もあるが、枝番号をつけ現表土として一括して扱った。
 - I 1 層 やや砂質で、礫を含む部分もある。
 - I 2層 SD02で確認。上位に砕石を多く含む。
 - I3層 SD02 で確認。I2層に類似するが、やや黒色味を帯び砕石を含まない。
- Ⅱ層 As-B 混土だが、SD01の6層より As-Bの含有量少ない。
- Ⅲ層 ローム漸移層。暗褐色土とローム土の混土。ローム土の多いⅢ1層と、比較して少ないⅢ2層に細分した。
- IV層 褐色土。ローム層。鉄分沈着が斑状に認められる部分がある。色調・しまり・粘性の違い、礫の含み方などに多少 の差がある。しかし基本的には類似した層として認められるため、枝番号をつけIV層の中で一括した。
 - IV 1 層 1.0 ~ 3.0cm 内外の礫を含む。
 - IV 2 層 $5.0 \sim 15.0$ cm 内外の礫を含む。しまりが強い。
 - IV 3 層 30.0cm 内外の礫を含む。しまりが強い。



基本層序

- 黒褐色(10YR2/3)しまり強い。粘性弱い。ローム粒・ブロック(ϕ 0.2~1.0cm)少量。 I 1
- 白色軽石粒(ϕ 0.05~0.5cm) 含む。炭化物粒(ϕ 0.5cm) 微量。 暗褐色(10YR3/3) しまり強い。粘性弱い。ロームブロック(ϕ 0.5~1.0cm) 微量。白
- I 3
- 管局色(10YR3/3)しまり強い。粘性弱い。ロームブロック(φ0.5~1.0cm)微量。白色軽石粒(φ0.05~0.5cm)少量。 倍褐色(10YR3/3)しまり強い。粘性弱い。ロームブロック(φ0.5~1.0cm)微量。白色軽石粒(φ0.05~0.5cm)少量。 黒褐色(10YR3/3)しまりあり。粘性ややあり。ローム粒(φ0.1~0.5cm)微量。As-B
- 混土。 にぶい黄褐色(10YR4/3)しまりあり。粘性ややあり。ローム混土。
- 暗褐色(10YR3/3)しまりあり。粘性ややあり。ローム混土。Ⅲ1層より混じり少ない。 白色軽石粒(φ0.05~0.1cm)微量。
- 福色 (10YR4/6)しまりあり。粘性ややあり。 $\Re(\phi 1.0 \sim 3.0 \text{cm}$ 内外)含む。 にぶい黄褐色 (10YR5/4)しまり強い。粘性あり。 $\Re(\phi 5.0 \sim 15.0 \text{cm}$ 内外)含む。
- IV 3 にぶい黄褐色(10YR5/4)しまり強い。粘性あり。礫(φ30cm内外)含む。

S D 01

Α'

黒褐色(10YR2/3)しまりあり。粘性弱い。ローム粒(φ0.5~1.0cm)少量。 1 自色軽石粒(φ0.05~0.5cm)少量。As-B混土。

カクラン

H=80.60m S D 05

H=81.00m S D 06

11

- 黒褐色(10YR2/2)しまりあり。粘性あり。ローム粒・ブロック(ϕ 0.2~1.0
- 黒褐色(10YR2/2)しまりあり。粘性ややあり。ローム粒(ϕ 0.1 \sim 0.5cm)微 量。As-B混土。
- 黒褐色(10YR2/2)しまりあり。粘性あり。ローム粒(φ0.1~0.5cm)微量。
- As-B混土。肉眼で3・5層より黒色味あり。 黒褐色(10YR2/2)しまりあり。粘性ややあり。ローム粒(φ0.1~0.5cm)微

- 黒褐色(10YR2/2)しまりあり。粘性ややあり。ローム粒(φ0.1~1.0cm)微
- 8 にぶい黄褐色(10YR4/3)しまり強い。粘性あり。ローム粒(φ0.5cm)微量。 S D 02
- 黒褐色(10YR2/2)しまりあり。粘性ややあり。白色軽石粒(ϕ 0.1~0.3cm) 小量.
- ス 量。 黒褐色(10YR2/3)しまりあり。粘性ややあり。ローム混土。白色軽石粒(φ 0.1~0.3cm)少量。

暗褐色(10YR3/4)しまりややあり。粘性ややあり。ローム混土。白色軽石 粒(φ0.05~0.1cm)微量。焼土粒(φ0.1~0.3cm)微量。

1 暗褐色(10YR3/3)しまりあり。粘性ややあり。ローム粒(φ0.1~1.0cm)少量。白色軽石粒(φ0.05~0.1cm)少量。

第4図 基本層序・溝断面図(1)

V.検出された遺構と遺物

本遺跡では古墳時代と考えられる溝1条、古代以前の溝2条と土坑8基、As-B 混土で埋没した溝4条(SD01の掘り直し を含む)と土坑 6 基、近世以降のピット 2 基が検出された。遺構には As-A 混土を覆土とするものや As-B 混土を覆土とする もの、As-Aと As-B を含まないものがあり、ある程度の時期が想定できる。

遺物は、弥生時代の石器・土器、古墳時代から古代までの土師器や須恵器、中世の無釉の軟質陶器、近世以降の陶磁器や 瓦などが総破片数530点ほど出土しているが、直接遺構の時期を示す状況では出土しなかった。破片数では480点ほどと なる、古墳時代を中心とした土師器片が最も多い。しかし出土遺物は細片が多く、時期や部位の特定が困難なものもその半 数以上を占めた。その中で比較的まとまって出土した遺物や、各遺構の遺物の出土傾向を示すものを掲載した。

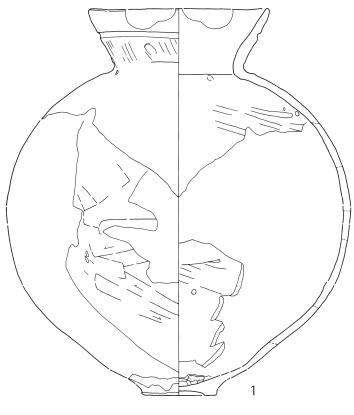
1. 溝跡

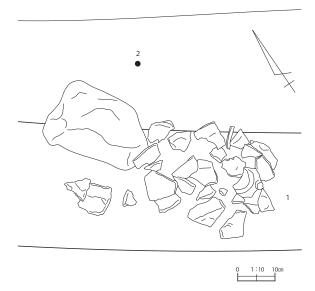
6条を検出した。古墳時代と考えられる SD01 以外は、覆土や層位から古代以前と中世以降の時代が考えられる。

1号溝跡(SD01、第3・4・5・6図;写真図版1・2・4)

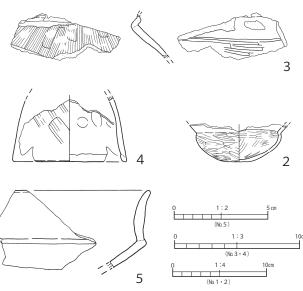
位置: 座標(X = 36354、Y = -68857)と座標(X = 36370、Y = -68879)の間に位置する。 **形態**: 断面は上半が逆「ハ」字状に開き、下半は筒状で下方へいくに従い幅が狭まる形状で、いわゆる漏斗状を呈する。走向は北西—南東方向で、主軸方向は N-55°-W である。南東に下がる傾斜で、段上の底面の比高差は 12cm である。上端幅約 170 \sim 340cm、深さ約 130 \sim 170cm を測る。底面は、北西側は平坦で底面幅約 40 \sim 60cm となるが、溝北西端から約 520cm で北東側の半分ほどが 1 段下がり、南東側までそのま

ま続いている。段差の比高差は約2~8cmで ある。 概要:本遺構は調査区の中心を通る。 SKO4・09・14と重複しており、切り合いか らは本遺構が最も古い。SD04とも重複し、切 り合いは不明だが覆土から本遺構の方が古いと 考えられる。断面観察によれば溝には最低2時 期が考えられ、5層までが再掘時の掘り込みと なる。1次調査で検出された溝(SD01)に続 く溝と考えられる。 遺物:遺物は上層からの 出土が大半であり、明確に溝の年代を決定し得 る遺物は出土していない。土師器53点、須恵 器3点、陶磁器1点が出土している。北西の上 層(7層)の右壁際から土師器片(No. 1)が ややまとまって出土し、出土状況を平面図化し て採り上げた。掘り込みなどは確認できず、溝 の埋没過程での遺物と考えられる。No. 1 は壺 の口縁部~胴部片で、口縁部に沈線が1条施さ れる。底部片も出土しており、接合しなかった ものの出土状況や胎土・調整などから同一個体 であると考えられる。胴部は球状を呈し、横あ





第5図 SD01遺物出土状況図



第6図 SD01出土遺物図

第2表 SD01出土遺物観察表

掲載 番号	種別	器種	残存部位	器高 長さ	口径幅	底径 厚さ	重量	外面	色調	調 内面色調		主な文様・調整等	備考
1	土師	壺	口~底 1/3	⟨41.0⟩	⟨19.0⟩	7.8	_	5 Y R 5/6	明赤褐	5 Y R 6/4	橙	外: (口) 横ナデ、沈線 1 条 (口〜頸) 縦ヘラナデ (胴) 横、斜ヘラケズリ (腰) ナデ (底) 縁辺部高台状に わずかに高くなる 内: (口〜頸) 横ナデ (胴〜腰) 横、斜ナデ (底) ヘ ラナデ、付着物あり	底部接合しないが同 一個体 片岩
2	土師	坩	頸~底	(3.9)	⟨11.0⟩	2.0	_	5 Y R 4/6	赤褐	5 Y R 4/6		外: (体) 横、斜ミガキ (底) ケズリ 内: (頸) 横ミガキ (体~底) 斜ミガキ、底部近くに 工具痕か	内面赤彩残る 白色粒子
3	土師	S字甕	口~肩	(3.1)	_	_	_	10 Y R 5/3	にぶい 黄褐	10 Y R 5/3		外:(肩) ケズリのち縦ハケ 内:(口) 横ナデ(肩) 横へラナデ	白色粒子 角閃石か
4	土師	S字甕	台部	(5.2)	_	⟨9.0⟩	_	10 Y R 6/3	にぶい 黄橙	10 Y R 6/3			白色粒子 角閃石か
5	土師	坏	口~体	(4.2)	_	_	_	5 Y R 5/8	明赤褐	5 Y R 5/8		外:(□) 横ナデ(体) ナデ 内:(□) 横ナデ(体) ナデ	白色、赤褐色粒子

るいは斜方向のヘラケズリが施される。5~6世紀代の年代が考えられる。No. 2は坩の頸部~底部片で、内面には赤彩の痕跡が認められる。全形が不明であるが、後述する S 字状口縁台付甕とほぼ同時期と考えて齟齬はないであろう。覆土中の一括遺物の中では、実測に耐えうる遺物として以下の土師器片が 3 点ある。No. 3 は S 字状口縁台付甕の口縁部~肩部片で、外面の肩部平行線が喪失している点から田口一郎氏の編年(飯塚・田口 1981)によるIV類で、Ⅲ期~V期(4世紀中葉~5世紀初頭)に比定される。No. 4 は同じく台部の破片である。No. 5 はいわゆる模倣坏で、口縁部は外反し、浅い体部をもつ。坂口一氏の編年(坂口 1986)ではIV期~V期に該当し、6世紀第 2 四半期~第 3 四半期に比定される。掲載した以外にも複数の模倣坏小片が出土している。 時期:出土した遺物から、4世紀中葉~5世紀初頭以降が開削の上限となり、6世紀後半代が下限と考えられる。また断面観察から、埋没途中あるいは埋没後に掘り直した痕跡が認められる。1 次調査では As-B の 1 次堆積層が確認されているが、本調査では確認できなかった。しかし溝が As-B 混土層で完全に埋没している点は共通しており、掘り直し後の溝が最終的に As-B 降下後に埋没したという状況がうかがえる。

2号溝跡(SD02、第3・4図;写真図版3)

位置:座標(X=36361、Y=-68860)と座標(X=36373、Y=-68874)の間に位置する。 **形態**:断面形状は皿状を呈する。平面形状は調査区の北東壁から「コ」字状に検出され、調査区外に続いている。残存部が良好な西側で上端幅約 $132\sim168$ cm、深さ約 $13\sim24$ cm、底面幅約 $108\sim124$ cm を測る。 概要:溝の東側はベルトを設定して遺構の確認に努めたが攪乱で壊されており、立ち上がりの痕跡が部分的に残っている程度であった。しかし北東壁付近では調査区外に続く形で検出された。平面形状から何らかの区画溝と推定されるが、覆土からは流水の痕跡は認められず、また溝の内側では遺構なども認められなかった。 遺物:覆土中から土師器の細片が 3 点、須恵器の壺・甕類の胴部片が 1 点出土しているが、実測に耐えうるものはない。 時期:覆土が 3 名s-B 混土であり、中世以降と考えられる。

3号溝跡(SD03、第3・7図)

位置:座標(X=36366、Y=-68864)と座標(X=36368、Y=-68867)の間に位置する。 **形態**:断面形状は箱 状を呈する。走向は北西—南東方向で、主軸方向は $N-65^\circ$ -W である。南東に下がる傾斜で、比高差は 10cm である。上 端幅約 $18\sim28$ cm、深さ約 $6\sim8$ cm を測る。 概要:直線的に走向し、SD04 と直交に近い形で重複する。切り合いからは本遺構の方が古いが、覆土は類似している。 遺物:出土していない。 時期:覆土が As-B 混土であり、中世以降 と考えられる。

4号溝跡(SD04、第3・7図)

位置:座標 (X = 36362、Y = -68863) と座標 (X = 36368、Y = -68868) の間に位置する。 **形態**: 断面形状は U 字状を呈する。走向は北東-南西方向で、主軸方向は N-35°-E である。南西に下がる傾斜で、比高差は 11cm である。上端幅約 20 ~ 56cm、深さ約 3 ~ 15cm を測る。 概要: 直線的に走向し攪乱で痕跡がなくなるが、その延長線上に再び痕跡が確認でき、SD01 と重複する。切り合いは不明だが、覆土から本遺構の方が新しいと考えられる。直交する形で SD03 とも重複するが、切り合いから本遺構のほうが新しい。SD03 に類似した覆土であるが、比較してしまりが弱い。 **遺物**: 出土していない。 **時期**: 覆土が As-B 混土であり、中世以降と考えられる。

5号溝(SD05、第3・4図)

位置:座標(X=36364、Y=-68878)と座標(X=36367、Y=-68882)の間に位置する。 **形態**:断面形状は皿状を呈する。走向は北西-南東方向で、やや東に湾曲する。主軸方向は $N-62^\circ$ -W である。北西に下がる傾斜で、 $3\,\mathrm{cm}$



S D 03

1 黒褐色(10YR2/3)しまりあり。粘性弱い。ローム粒・ブロック(φ0.1~0.3cm)少量。白色軽石粒 (φ0.05~0.1cm)少量

S D 04

黒褐色(10YR2/3)しまりややあり。粘性弱い。ローム粒(φ0.1~0.3cm)少量。白色軽石粒(φ0.05~0.1cm)少量。

第7図 溝断面図(2)

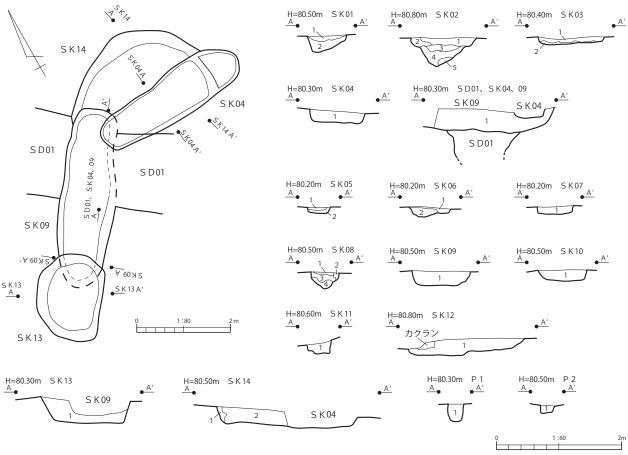
の比高差がある。上端幅約 $28\sim36$ cm、深さ約 $1\sim8$ cm を測る。 概要:計測値からは、他の北西-南東方向に走行する溝と傾斜が逆である。しかし溝底部は部分的な凹凸があるものの全体的には平坦な底面である。 遺物:出土していない。 時期:覆土がIII層に似ており、古代以前と考えられる。

6号溝(SD06、第3・4図;写真図版3)

位置:座標(X=36357、Y=-68856)と座標(X=36359、Y=-68858)の間に位置する。 **形態**:断面形状は U 字状を呈する。走向は北西-南東方向で、主軸方向は $N-64^\circ$ -W である。南東に下がる傾斜で、比高差は $9\,\mathrm{cm}$ である。上端幅約 $16\sim36\,\mathrm{cm}$ 、深さ約 $9\sim14\,\mathrm{cm}$ を測る。 概要:直線的に走行する溝で、 $1\,\mathrm{次調査}$ で検出された溝(SD02)に続くものと考えられる。 遺物:出土していない。 時期:覆土が As-B 混土に被覆されていることから、古代以前と考えられる。

2. 土坑・ピット (SKO1 ~ 14、P 1~2、第8・9図;写真図版3・4)

10 基の土坑で遺物が確認されたが、総じて出土量は多くない。その中で SK06 は比較的多くの遺物が出土したが、底 面直上からの出土ではない。遺物は小破片が多く、実測に耐えうる遺物としては SK06 ~ 09・14 で出土した土師器片と SK13 で出土した石器がある。 No. 6・7 は SK06 で出土した甕の口縁部~肩部片と肩部~胴部片で、接合しないものの、胎土・ 調整などから同一個体と見なされる。残存する上半部からは球胴状を呈すると考えられ、外面はヘラケズリを施す。古墳時 代に比定できる。ほかに土師器細片と須恵器坏蓋の破片が出土しており、須恵器坏蓋はかえりの痕跡が認められることか ら、7世紀第3四半期~8世紀第2四半期までの時期が考えられる(坂口・三浦1986)。覆土から想定される土坑の年代 の古代以前と齟齬はない。No. 8 は SK07 で出土した模倣坏の口縁部~体部の破片で、口縁部が短く外反する器形は坂口編 年でVI段階(6世紀第4四半期)に該当すると考えられるが、前述のように土坑自体は覆土から As-B 降下後の年代である。 No. 9 は SK08 で出土した甕の口縁部〜頸部片で、口縁部断面が「コ」字状の兆候を見せる段階と考えられ、9世紀第2四 半期に比定できる(坂口・三浦 1986)。覆土から想定される土坑の年代の古代以前と齟齬はない。No.10 は SK09 で出土し た坏の口縁部~体部の破片で、短い口縁部と浅い体部をもつ器形は坂口編年でVI段階~VI段階(6世紀第4四半期~7世紀 第1四半期)に該当すると考えられる。土坑自体は覆土から As-B 降下後の時期が考えられる。No.11 は SK13 で出土した 石核で、石材は安山岩と考えられる。表面は風化している。土坑自体は覆土から As-B 降下後の時期が考えられる。No.12 は SK14 で出土した甕あるいは甑の口縁部〜頸部の破片で、口縁部の外反は弱く胎土に砂礫を多量に含むのが特徴である。 5世紀第4四半期~6世紀第1四半期(坂口1986・1987)に該当すると考えられる。遺物としてはこの1点のみなので、 遺物の年代は土坑の年代の上限を示すに過ぎない。土坑自体は覆土から古代以前の時期が考えられる。



S K 01

- 1 暗褐色(10YR3/3)しまりあり。粘性ややあり。ローム粒(ϕ 0.5~1.2cm)含む。 白色軽石粒(ϕ 0.05~0.5cm)少量。 2 黒褐色(10YR2/3)しまりあり。粘性ややあり。白色軽石粒(ϕ 0.05~0.1cm)微

S K 02

- 1 2
- 暗褐色(10YR3/4)しまりあり。粘性弱い。白色軽石粒(φ0.05~0.1cm)少量。 褐色(10YR4/4)しまりあり。粘性ややあり。白色軽石粒(φ0.05~0.1cm)少
- 国。 3 黒褐色(10YR2/3)しまりあり。粘性弱い。白色軽石粒(φ0.05~0.1cm)少量。 4 暗褐色(10YR3/3)しまりあり。粘性弱い。白色軽石粒(φ0.05~0.1cm)少量。 5 褐色(10YR4/6)しまりあり。粘性あり。ローム土主体で4層の土混じり。

- 黒褐色(10YR2/3)しまりあり。粘性ややあり。ローム粒(ϕ 0.1~0.5cm)微量。 1 白色軽石粒(ϕ 0.05 \sim 0.1cm)微量。 暗褐色(10YR3/4)しまりあり。粘性あり。白色軽石粒(ϕ 0.05 \sim 0.1cm)微量。

S K 04

黒褐色(10YR2/2)しまりややあり。粘性弱い。ローム粒・ブロック(φ0.5~ 1 2.0cm)微量。As-B混土。

S K 04 • 09

1 黒褐色(10YR2/2)しまりややあり。粘性弱い。ローム粒・ブロック(ϕ 0.5 \sim 2.0cm)微量。As-B混土。

S K 0.5

- 暗褐色(10YR3/3)しまりあり。粘性ややあり。ロームブロック(φ0.5cm)微量。 白色軽石粒(φ0.05~0.2cm)微量。
- 暗褐色(10YR3/4)しまりあり。粘性ややあり。白色軽石粒(φ0.05~0.2cm)微 量。

S K 06

- 黒褐色(10YR2/3)しまりあり。粘性ややあり。白色軽石粒(φ0.05~0.3cm)微
- 2 暗褐色(10YR3/3)しまりあり。粘性あり。焼土粒(φ0.1~1.0cm)微量。

S K 07

1 黒褐色(10YR2/2)しまりややあり。粘性弱い。ローム粒(ø0.5cm)微量。

S K 08

- 黒褐色(10YR2/3)しまりややあり。粘性ややあり。焼土粒(ϕ 0.1cm)微量。炭化粒(ϕ 0.1 \sim 0.5cm)少量。 にぶい黄褐色(10YR4/3)しまりあり。粘性あり。ローム土主体。壁崩落土か。 黒褐色(10YR2/2)しまりややあり。粘性ややあり。焼土粒(ϕ 0.1 \sim 0.7cm)少量。
- 炭化粒(φ0.1~0.5cm)少量。 黒褐色(10YR2/3)しまりあり。粘性ややあり。ロームブロック(φ0.1~0.3cm)多 量。焼土粒(ϕ 0.1cm)微量。炭化粒(ϕ 0.1cm)微量。

S K 09

黒褐色(10YR2/2)しまりややあり。粘性弱い。ローム粒(φ0.1~0.5cm)微量。 As-B混土。

S K 10

黒褐色(10YR2/3)しまりややあり。粘性ややあり。ロームブロック(ϕ 1.0~ 4.0cm) 含む。白色軽石粒 (φ 0.05cm) 少量。

1 暗褐色(10YR3/3)しまり強い。粘性あり。白色軽石粒(φ0.1cm)少量。

暗褐色(10YR3/3)しまり強い。粘性あり。ローム粒(ϕ 0.1 \sim 0.5cm)含む。白色軽石粒(ϕ 0.05 \sim 0.5cm)含む。焼土粒(ϕ 0.01 \sim 0.5cm)微量。

1 黒褐色(10YR2/3)しまりややあり。粘性ややあり。ローム粒(ϕ 0.1 \sim 0.5cm)少 量。As-B混土。

S K 14

- 1 暗褐色(10YR3/4)しまりあり。粘性ややあり。2層の土にロームブロック(ϕ 1.0
- 黒褐色(10YR2/3)しまりあり。粘性ややあり。ローム粒(φ0.1~0.5cm)微量。 ロームブロック(\$ 2.0~4.0cm) 少量。

1 黒褐色(10YR2/2)しまりややあり。粘性弱い。ローム粒・ブロック(φ0.3~1.5cm) 少量。白色軽石粒(ϕ 0.05~0.1cm)少量。焼土粒(ϕ 0.1~0.4cm)微量。

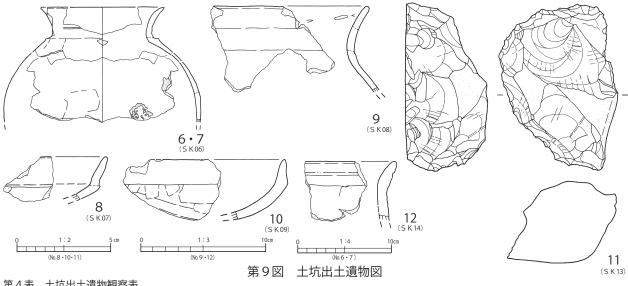
1 黒褐色(10YR2/3)しまりややあり。粘性ややあり。白色粒子(φ0.05~0.1cm)微 量。

第8図 土坑、ピット平・断面図

第3表 土坑・ピット計測表

遺構番号	X軸	Y 軸	平面形状	断面形状	主軸方位	長軸	短軸	最深	覆土	遺物	時期	備考
SK01	36362 ~ 36364	-68875 ∼-68877	楕円形	逆台形	N-45° -W	90	52	36	С	H2、S1	古代以前	第3・8図
SK02	36370 ~ 36372	-68875 ∼-68877	楕円形	逆三角形	N-36° -W	102	82	44	С	_	古代以前	第3・8図
SK03	36357 ~ 36359	-68864 ~ -68866	楕円形	箱形	N-44° - E	122	100	10	С	_	古代以前	第3・8図
SK04	36357 ~ 36359	-68858 ∼-68862	隅丸長方形	箱形	N-86° - E	(334)	101	19	В	H7、K1	As-B 降下以降	SK09・14 を切る 第3・8図
SK05	36350 ~ 36352	-68861 ~-68864	長方形	逆台形	N-68° -W	199	41	9	С	_	古代以前	第3・8図
SK06	36353 ~ 36355	-68860 ~ -68862	隅丸長方形	段を持つ皿状	N-54° -W	120	71	17	С	H42、S1	古代以前	第3・8図
SK07	36354 ~ 36357	-68860 ~ -68862	隅丸長方形	箱形	N-42° -W	190	65	13	В	H2	As-B 降下以降	第3・8図
SK08	36360 ~ 36362	-68857 ~ -68859	楕円形	逆三角形	N-21° - E	116	50	26	С	H11	古代以前	第3・8図
SK09	36355 ~ 36359	-68861 ~ -68864	長方形	逆台形	N-36° - E	(312)	120	23	В	H1、S1、L1	As-B 降下以降	SK04 に切られる SK13・SD01 を切る 第3・8図
SK10	36361 ~ 36363	-68857 ~ -68859	楕円形	逆台形	N-43° - E	126	88	18	С	H2	古代以前	第3・8図
SK11	36365 ~ 36367	-68865 ~ -68866	楕円形	箱形	N-9° - E	93	42	17	В	_	As-B 降下以降	第3・8図
SK12	36368 ~ 36371	-68872 ~ -68876	楕円形	逆台形	N-56° -W	332	(186)	26	В	H62、S1、C1	As-B 降下以降	第3・8図
SK13	36354 ~ 36357	-68862 ~ -68865	楕円形	逆台形	N-36° - E	183	140	34	В	H6、L1	As-B 降下以降	SK09 に切られる 第3・8 図
SK14	36358 ~ 36360	-68858 ∼ -68862	楕円形	逆台形	N-60° - E	(179)	132	26	С	H5	古代以前	SK04 に切られる 第3・8図
P 1	36357 ~ 36359	-68857 ~ -68858	楕円形	U字形	N-59° -W	26	22	27	A	_	近世以降	第3・8図
P 2	36360 ~ 36361	-68860 ∼-68862	円形	逆台形	N-17° -W	23	23	12	A	_	近世以降	第3・8図

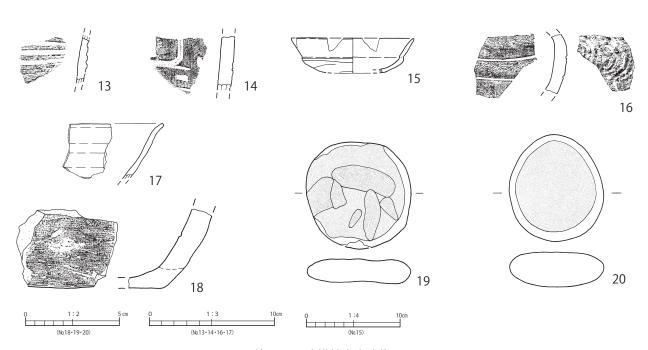
※覆土分類:A = As-A を含む暗褐色〜黒褐色土、B = As-B を含みやや砂質の黒褐色土、C = その他(As-A 及び As-B を含まない) 遺物略号:Y = 弥生土器、H = 土師器、S = 須恵器、C = 陶磁器、K = 瓦、L = 石器



第4	表:	上坑出:	上遺物観	祭表									
掲載 番号		器種	残存部位	器高 長さ	口径幅	底径 厚さ	重量	外面	i色調	内面	i色調	主な文様・調整等	備考
6	土師	甕	口~肩	(5.6)	⟨13.0⟩	_	_	5 Y R 6/8	橙	5 Y R 6/6	橙	外:(口) 横ナデ (肩) 横へラケズリ 内:(口) 横ナデ (肩) 横ナデ	7 と接合しないが同 一個体か 角閃石か
7	土師	甕	肩~胴	(6.5)		_	_	5 Y R 6/8	橙	5 Y R 6/6	橙	外: (肩〜胴) 横へラケズリ 内: (肩〜胴) ナデ、付着物あり	6と接合しないが同 一個体か 角閃石か
8	土師	坏	口~体	(2.3)	-	_	-	5 Y R 4/8	赤褐	5 Y R 4/4		外:(口) 横ナデ(体) ヘラケズリのちナデか 内:(口) 横ナデ(体) ナデ	赤褐色粒子
9	土師	甕	口~頸	(6.8)	=	-	=	5 Y R 4/4	にぶい 赤褐	5 Y R 5/6	明赤褐	外: (口~頸) 横ナデ 内: (口~頸) 横ナデ	白色粒子 角閃石か
10	土師	坏	口~体	(3.2)	-	-	-	5 Y R 5/6	明赤褐	5 Y R 5/6	明赤褐	外:(口) 横ナデ(体) ヘラケズリ 内:(口) 横ナデ(体) ナデ	
11	石器	石核	_	8.8	6.2	4.3	254	7.5 Y R 8/2	灰白	7.5 Y 8/2	灰白	上面と左側面に剥離痕。上面と下面に平滑面。	黒色安山岩か 磨石の転用か
12	土師	甕	口~頸	(4.7)	-	_	_	2.5 Y R 5/8	明赤褐	2.5 Y R 5/8	明赤褐	外: (口〜頸) 横ナデ 内: (口〜頸) 横ナデ	φ 0.5 ~ 4.0mmの砂 礫多量含む 角閃石か

3. 遺構外出土遺物 (第10図;写真図版4)

遺構確認面で弥生土器片・土師器片・須恵器片・陶磁器片・桟瓦片・石器などが出土しているが、土師器片が主体をなす。No.13 は外面に平行沈線が、No.14 は逆「L」字状に屈曲する沈線が残る壺か甕と考えられる胴部破片で、弥生時代中期~後期の時期が考えられる。ほかに沈線を施す弥生土器片と考えられる破片が2点出土している。No.15 は土師器の模倣坏で、口縁部~体部の破片である。外反し浅い体部をもつ器形で、7世紀第2四半期(坂口 1986)と考えられる。ほかに6世紀~7世紀代と考えられる模倣坏小片が複数出土している。No.16 は須恵器壺・甕類の肩~胴部片で、外面に沈線と波状文を、内面に同心円当て具痕をもつ。No.17 は坏・椀類の口縁部~体部の破片である。酸化焔焼成の須恵器で、10世紀代と考えられる。No.18 は無釉の軟質陶器の体部~底部にかけての破片で、外面が炭素吸着による黒色を呈していることから、いわゆる瓦質土器とも呼ばれる。やや外反して立上がり、鍋などの器形が考えられる。中世に比定できる。No.19・20 は磨石で、共に長さ、幅が5~6cm に納まる小型で扁平な形状をもつ。吉ヶ谷系の土器片が伴出していることから、同時期のものである可能性も考えられる。



第10図 遺構外出土遺物図

第5表 遺構外出土遺物観察表

掲載 番号	種別	器種	残存部位	器高 長さ	口径幅	底径 厚さ	重量	外面	色調	色調 内面色調		主な文様・調整等	備考
13	弥生	壺	胴	(3.7)	_	_	_	5 Y R 6/4	にぶい 橙	5 Y R 5/6	明赤褐	外:条痕または板状工具による横ナデのち3条の平 行沈線が残る 内:横ナデ	φ 0.5 ~ 1.0mmの砂 礫含む
14	弥生	壺・甕	胴	(4.2)	_	_	_	10 Y R 3/3	暗褐	10 Y R 6/4	に <i>ぶ</i> い 黄橙	外:逆『L』字状の沈線、他にも工具痕跡残る(文 様かどうか不明)、黒班 内:横ナデ	石英、角閃石か
15	土師	坏	口~体	(3.6)	⟨13.0⟩	_	_	5 Y R 6/8	橙	5 Y R 6/8	橙	外: (口) 横ナデ (体) ヘラナデ 内: (口~体) 横ナデ	
16	須恵	壺・甕	肩~胴	(4.6)	_	_	_	5 Y 4/1	灰	5 Y 4/1	灰	外:平行沈線2条認められ、間に櫛描波状文施す 内:同心円当て具痕	白色粒子
17	須恵	坏・椀	口~体	(4.3)	-	_	_	10 Y R 5/4	にぶい 黄褐	10 Y R 5/6	黄褐	外: (口~体) 横ナデ 内: (口~体) 横ナデ	酸化焔焼成 白色粒子、角閃石か
18	軟質陶 器	鍋か	体~底	(4.2)	_	_	_	2.5 Y 3/1	黒褐	2.5 Y 4/1	黄灰	外:(体) ケズリのち横ナデ (底) ヘラケズリのちナ デか 内:(体) 横ナデ (底) ナデ	いわゆる瓦質土器 白色粒子
19	石器	磨石	ほぼ完形	5.5	5.5	1.3	66	10 Y R 4/3	にぶい 黄褐	10 Y R 4/3	にぶい 黄褐	両面ともに全面磨き痕。数条の光沢をもつ凹滑痕あ り。全面的にわずかにくぼむ。	輝石安山岩
20	石器	磨石	完形	5.6	5.0	1.8	77	5 Y 5/1	灰	5 Y 5/1	灰	両面磨き痕	輝石安山岩

VI. まとめ

本遺跡では古墳時代と考えられる溝1条、古代以前の溝2条と土坑8基、As-B 混土で埋没した溝4条(SD01の掘り直しを含む)と土坑6基、近世以降と考えられるピット2基を調査した。ここではある程度時期が特定できる遺構や特徴的な遺構を中心に、周辺遺跡の事例にも触れつつまとめとしたい。

古墳時代の遺構としてはSD01がある。調査区内においては微高地の縁辺に沿って北西-南東方向に直線的に延びており、 前述した通り断面形状は漏斗状を呈し、古墳時代前期が開削の上限となる。このような溝は井野川左岸の周辺遺跡では確認 できず、管見の限りでは本遺跡の南東方向に位置する元島名将軍塚古墳の調査で、周堀の外側から検出された溝(溝4。以 下「溝4」と称する)が該当する。この溝は墳丘東側面周堀外に位置し、おおむね北西-南東方向に走行する。上幅約 90 ~ 150cm、下幅約30~70cm、深さは現地表面から約170cmでローム面からは約120~130cmと報告されている。こ の溝は墳丘の後方部側においても前方部側においても、周堀の外郭ラインに呼応して折れ曲がるような兆候は認められず、 それぞれ調査区外の北西および南東方向に延びていく様相を呈する。出土土器から、溝が開削されたのは古墳構築の時期よ り古く考えられており、古墳構築との関連の有無が検討されている (飯塚・田口 1981)。覆土の上からは、本調査および 1次調査で As-B 降下後に完全に埋没した様相がうかがえるのに対し、それが観察できないことや、逆に溝 4 ではトレンチ の一部で Hr-FA または Hr-FA の水性堆積層によって最上層が埋没しているのが認められるが本調査や 1 次調査では認めら れないなど、相違する部分もある。しかし溝の断面形状や南東方向へ下がる傾斜、遺物の出土が中層以上で認められる点な どは共通している。SD01で出土したS字甕片(No.3)は、溝4の上層出土の遺物がN類を含むことから、上層出土遺物 に相当するものと考えられる。若狭徹氏は、元島名将軍塚古墳が新たに進出したこの地域の開拓者の墳墓であり、当時の社 会システムが水利開発を主軸に据えていたと想定している(若狭 2007)。今回調査された SD01 が元島名将軍塚古墳調査 時に検出された溝4に続く溝であれば、古墳時代前期の水利開発に伴うものと考えられるだろう。しかし SD01 と溝4は直 線距離にして約 250m 離れており、あくまで溝の断面形状や遺物などから共通性が認められるに過ぎない。その証明には 考古学的な調査による確認が必要であり、今回はその可能性を指摘するにとどめる(第11図)。

井野川右岸側では本遺跡の北西に位置する高崎情報団地遺跡や、その東側に隣接する高崎情報団地Ⅱ遺跡で古墳時代前期の灌漑用水路と考えられる溝が検出されている。高崎情報団地Ⅱ遺跡で検出された SD99 は、ほぼ直線的に走行し 300 m 以上にわたって続くことが確認されており、本遺跡の SD01 を灌漑用水路と想定した場合の参考となろう。また SD01 を灌漑用水路と想定した場合の用水の供給先としては、既調査の遺跡では古墳時代前期の水田が検出されている上滝遺跡や上滝榎町北遺跡が候補にあげられるだろう。

古代以前の遺構としては SK08 と SK14 がある。出土遺物からは SK08 は 9 世紀第 2 四半期、SK14 は 5 世紀第 4 四半期 \sim 6 世紀第 1 四半期と考えられる。共に覆土中からの出土であるため遺物の時期は下限を示すもので、覆土に As-B が認められないことから上限は As-B 降下以前だと考えられる。また SK14 は As-B 混土を覆土とする SK04 と重複しそれより古いので、As-B 降下以前との推定が補強できよう。

中世以降とした遺構は、覆土に As-B を含む溝・土坑があげられる。その中で SD02 は調査区内で平面形状が「コ」字状 に検出された溝である。西側の屈曲からすれば、東側の推定線もより緩やかな屈曲となるかもしれない。同じ井野川左岸の 鈴ノ宮遺跡や元島名遺跡などでは方形周溝墓が検出されているが、覆土や遺物の点からも該当しないと考えられ、何かしら の区画溝となる可能性がある。

参考文献

飯塚惠子・田口一郎,1981『元島名将軍塚古墳 前方後方墳の外部施設確認調査』高崎市教育委員会

坂口一,1986「古墳時代後期の土器の編年―三ツ寺Ⅲ遺跡を中心とした土師器と須恵器の平行関係―」『群馬文化』第 208 号,群馬県地域文化研究協議会

坂口一, 1987「群馬県における古墳時代中期の土器の編年-共伴関係による土器形式組列の検討-」『研究紀要』 4, (財) 群馬県埋蔵文化財調査事業団

坂口一・三浦京子、1986「奈良・平安時代の土器の編年-住居の重複と共伴関係による土器形式組列の検討-」『群馬県史研究』第24号、群馬県

高崎市史編さん委員会,1996『新編高崎市史資料編3中世Ⅰ』高崎市

高崎市史編さん委員会, 1999『新編高崎市史資料編1原始古代Ⅰ』高崎市

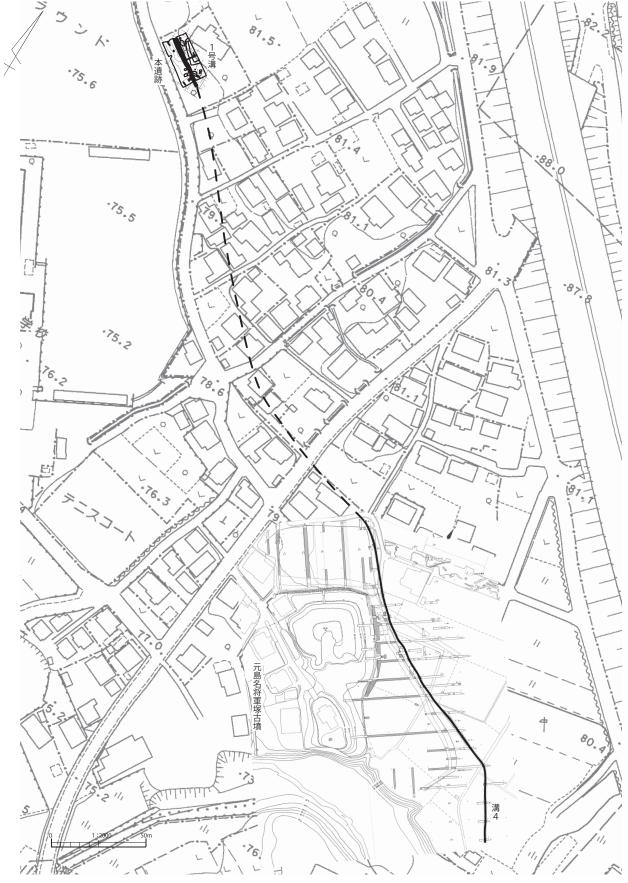
高崎市史編さん委員会,2000『新編高崎市史資料編2原始古代Ⅱ』高崎市

滝沢匡・山本ジェームズ・神戸肇,2011『平成22年度市内遺跡発掘調査報告書』高崎市教育委員会

坪井利弘, 1992 (1976)『日本の瓦屋根』理工学社

松村篤, 2003「吉ヶ谷期の石器文化 -棒状磨石と扁平磨石-」『埼玉考古』38, 埼玉考古学

若狭徹,2007『古墳時代の水利社会研究』学生社



第11図 古墳時代前期水路推定図(高崎市発行1/2,500『都市計画基本図』および飯塚・田口1981付図に一部改変・加筆)

写 真 図 版







2 SD01 全景 南東から

写真図版 2



3 調査前状況 南東から



4 重機掘削風景 北西から



5 SD01 遺物集中出土状況 南西から



SD01底面 北西から



7 SD 01 セクション 北西から



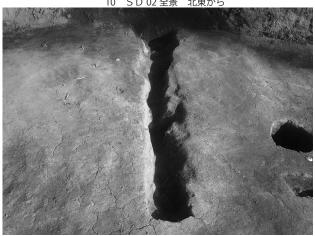
8 調査区から井野川方向 北東から

写真図版 3





11 SD 02 セクション 南西から



12 SD06 全景 北西から



13 SK 06 遺物出土状況 東から



14 SD 01、SK 04・09 セクション 南東から



15 SK 04・09・13・14 全景 北東から

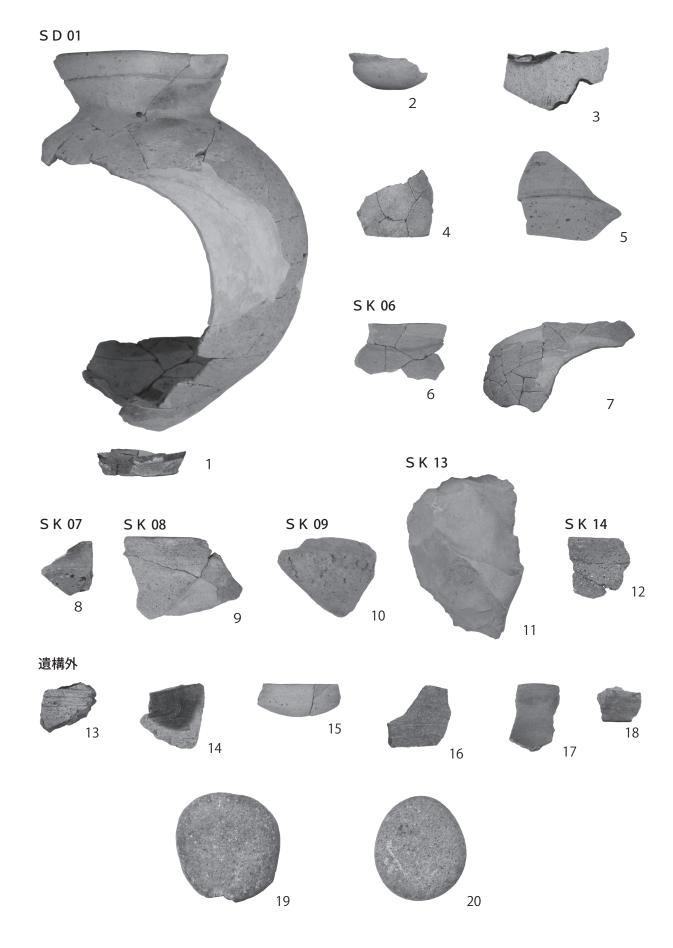


16 遺構確認作業風景 北から



17 重機埋め戻し風景 北東から

写真図版 4



発掘調査報告書抄録

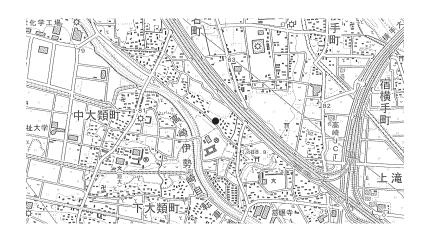
ふ り が な	もとしまなあさひいせき2
書名	元島名旭遺跡 2
副 書 名	建売分譲住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査
巻 次	
シ リ ー ズ 名	高崎市文化財調査報告書
シリーズ番号	第 394 集
編 著 者 名	小宮山達雄・村上章義・高崎市教育委員会文化財保護課
編 集 機 関	株式会社 歴史の杜
所 在 地	〒 377-0425 群馬県吾妻郡中之条町西中之条 723-9
発 行 年 月 日	平成 29 年 7 月 31 日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地		事歴委旦	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
別収退跡石	7月1生地	市町村	遺跡番号					
	たかさきし 高崎市							
もとしまなあさひ 元島名旭 2	もとしまなまち 元島名町	102024	690	36° 19′ 31″	139° 3′ 59″	2017.02.01	397m²	建売分譲住宅建設
	あざあさひ 字旭	102024				2017.02.20		建光 /
	ばんち 281 番地 1,2,3,4,5							

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
	(その他) 包含地	縄文		石核	
	(その他) 包含地	弥生		弥生土器(壺、甕等)	
元島名旭遺跡 (第2次調査)	(生産) 田畑	古墳	前期溝 1	土師器(球胴壺、 S字甕、模倣坏等)、 須恵器、扁平磨石	元島名将軍塚古墳の溝 4に接続か。井野川か らの取水用水路か。
	(その他) 包含地	古代以前	溝2、土坑8	土師器 (甕等)	
	(その他) 包含地	中世以降	溝4、土坑6	軟質陶器(鍋等)	溝は古墳時代前期の溝 の再利用を含む。
	(その他) 包含地	近世以降	ピット2	陶磁器、瓦(軒桟瓦)	

要約

古墳時代前期の溝を検出し調査を行なった。構築時期や断面形状から元島名将軍塚古墳の北東 に隣接する溝4に接続し、上滝遺跡や上滝榎町北遺跡などの前期水田に水を供給する用水路と推 定される。本遺跡周辺の前橋台地へ人が本格的に進出し、県内最古の古墳の一つである元島名将 軍塚古墳を造成する端緒となった土木遺構として重要である。



抄録図 遺跡の位置(国土地理院 1/25,000 地形図『高崎』)

高崎市文化財調査報告書 第 394 集

元島名旭遺跡2

- 建売分譲住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査-

平成 29 年 7 月 20 日印刷 平成 29 年 7 月 31 日発行

> 編集 株式会社 歴史の杜 発行 高崎市教育委員会 株式会社 歴史の杜 三共商事株式会社 印刷 朝日印刷工業株式会社